

〔感染症発生動向調査企画委員会情報〕

5月報

インフルエンザ定点（小児科定点を含む）

インフルエンザ 報告数157件(前月比0.4、前年比0.8)と1月の17,167件をピークとし減少しほぼ終息しています。菊池（定点当たり患者数6.0）天草（3.1）水俣（2.3）が目立ちます。

小児科定点

（全体傾向）

報告総数3,823件(前月比1.06、前年比0.88)で3-4月と比較して増減が少ないです。感染性胃腸炎が目立ちますが夏季に流行する手足口病やヘルパンギーナが増加傾向です。

（疾患別傾向）

1. RSウイルス感染症 : 58件の報告です。(前月比0.8、前年同月比1.6)と例年通りの推移です。1歳児を中心としてほぼ2歳以下の報告です。八代(定点あたり11.25)が目立ちます。
2. 咽頭結膜熱 : 報告数118件(前月比1.4、前年比1.1)と、例年並みの動きです。1歳での報告が多いようです。菊池(定点あたり6.2)、水俣(6.0)が目立っています。
3. A群溶連菌咽頭炎 : 報告数437件(前月比1.1、前年比1.1)です。例年と同様の傾向です。4歳を中心として、3歳～8歳が多いです。有明(定点あたり14.6)、宇城(同13.25)に多いようです。
4. 感染性胃腸炎 : 報告数1,532件(前月比0.9、前年比0.7)とやや減少していますが推移は例年と同様と考えます。年齢では1歳にピークがありますが、0歳から5歳まで3桁の報告数です。菊池(定点あたり69.8)、山鹿(同50.0)からの報告が多いです。
5. 水痘 : 報告数75件(前月比1.3、前年比0.8)と、例年同様の推移です。人吉(定点あたり3.67)、菊池(3.0)に多いようです。
6. 手足口病 : 報告数679件(前月比3.0、前年比0.8)と夏に向けて増加していますが例年並みの推移と考えます。人吉(定点あたり29.67)、菊池(同29.2)に多く見られます。今後の動向が注目されます。
7. 伝染性紅斑 : 報告数105件(前月比1.4、前年比15.0)と、昨年12月から一貫して増加してきています。有明(定点あたり9.6)に多いようです。
8. 突発性発疹 : 報告数199件(前月比1.1、前年比0.8)と、報告数も含めて推移は例年並みと思われます。6か月から1歳の報告がほとんどです。
9. ヘルパンギーナ : 報告数198件(前月比3.4、前年比3.8)と例年同様の推移で増加しています。天草(定点あたり9.75)、菊池(同9.4)が多いようです。1歳を中心として幅広い年齢からの報告です。
10. 流行性耳下腺炎 : 報告数17件(前月比0.9、前年比0.9)と昨年から引き続き低水準が続いています。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎 : 報告はありません。

2. 流行性角結膜炎 : 報告数 87 件(前月比 1.1、前年同月 0.9)と前月よりも僅かに増加しています。熊本 66 件、有明 21 件の報告です。年齢別では 20~69 歳と成人以降に多発していますが、乳幼児層での発症も目立ちます。

STD 定点

※平成 25 年 1 月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が 13 医療機関から 16 医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症 :

報告数 53 件(前月比 0.9、前年同月比 1.2)で、前月比は減少、前年同月比は増加しています。男女別は、男性に 30 件と多く見られています。年齢別は、男性は 20~29 歳に 13 件と多く、女性は 20~34 歳に 18 件と多く見られています。地区別は、熊本が 37 件と多く、次いで御船 9 件、八代、有明、宇城に各 2 件、人吉 1 件でした。

2. 性器ヘルペスウイルス感染症 :

報告数 14 件(前月比 0.8、前年同月比 0.7)で、前月比、前年同月比とも減少しています。男女別は、男性に 10 件と多く見られています。年齢別は、男性は 20~70 歳以上と幅広く見られ、女性も 25~70 歳以上と幅広く見られています。地区別は、熊本が 9 件と多く、次いで八代 3 件、菊池、有明に各 1 件でした。

3. 尖圭コンジローマ : 報告数は 10 件(前月比 1.1、前年同月比 2.5)で、前月比は僅かに増加、前年同月比は大幅に増加しています。男女別は、男性に 7 件と多く見られています。年齢別は、男性は 25~29 歳に 3 件と多く見られ、女性は 15~44 歳に見られています。地区別は、熊本に 8 件と圧倒的に多く、次いで菊池、御船に各 1 件でした。

4. 淋菌感染症 : 報告数は 9 件(前月比 0.6、前年同月比 1.0)で、前月比は減少し、前年同月比は同数でした。男女別では、全て男性でした。年齢別は、男性の 15~29 歳に 7 件と多く見られています。地区別は、熊本 8 件と圧倒的に多く、次いで有明 1 件でした。

基幹定点

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 :

報告数は 17 件(前月比 : 0.8、前年同月比 : 0.7、男女比 : 12/5)で減少傾向にあります。熊本・山鹿地区(5)、阿蘇地区(3)、人吉地区(2)、有明・天草地区(1)と広範囲に認めます。年齢分布としては 70 歳以上(10)を中心に高齢者で集中して多く検出されました。
▼例年より少なめの報告数で推移しています。

2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 :

報告数は 2 件(前月比 : 0.7、前年同月比 : 0.3、男女比 : 2/0)で低値横向きに推移しています。有明地区(2)でした。年齢分布としては 65~69 歳(1)、70 歳以上(1)でした。
▼例年より少なめの報告数で推移しています。

3. 薬剤耐性緑膿菌感染症 :

報告数は 1 件(前月比 : -、前年同月比 : -、男女比 : 0/1)でした。熊本地区(1)で、年齢分布は 60~64 歳(1)でした。
▼久しぶりの報告となります。

(週報分)

1. 細菌性髄膜炎 : 報告数は 0 件(前月比 : -、前年同月比 : -)で報告はありませんでした。
▼すでに減少傾向に転じて少なく、例年は今後とも安定経過にあります。

2. 無菌性髄膜炎： 報告数は4件（前月比：4.0、前年同月比：-）で増加しています。熊本地区(4)でした。年齢分布は15-19歳(1)、20-24歳(1)、45-49歳(1)、55-59歳(1)でした。
▼例年同様に増加傾向に転じ、今後の増加が見込まれます。
3. マイコプラズマ肺炎： 報告数は1件（前月比：1.0、前年同月比：1.0）で減少しています。熊本地区(1)でした。年齢分布は25-29歳(1)でした。
▼例年同様、低値横向き推移をしていますが、今後の増加が見込まれます。
4. クラミジア肺炎： 報告数は0件（前月比：-、前年同月比：-）で報告はありませんでした。
▼引き続き報告はありません。
5. 感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）：
報告数は35件（前月比：0.4、前年同月比：3.9）で急激な減少に転じていますが、依然報告数は多い状態です。熊本地区(32)で、山鹿・阿蘇・人吉地区(1)でした。年齢分布としては0歳(11)、1-4歳(22)、5-9歳(1)、10-14歳(1)でした。
▼既に急激な減少傾向にありますが、今後3か月の動向に注意が必要です。

届け出対象感染症

1類感染症	： ありませんでした。	
2類感染症	： 結核	22件
3類感染症	： 腸管出血性大腸菌感染症	7件
4類感染症	： デング熱	1件
	レジオネラ症	3件
	重症熱性血小板減少症候群	1件
	日本紅斑熱	2件
5類感染症	： カルバペネム耐性腸内細菌感染症	1件
	後天性免疫不全症候群	1件
	侵襲性肺炎球菌感染症	7件
	破傷風	1件
	梅毒	17件
	百日咳	50件